

## 第8回 佐世保市子ども・子育て会議 議事録（要約版）

日時：平成28年2月15日（月）19時～21時

場所：佐世保市役所すこやかプラザ8階 講堂

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<b>議題（1）新規確認施設に係る利用定員の設定について</b>	
<p>（事務局案が承認された。）</p>	
<b>議題（2）その他 ①「保育士配置の要件弾力化」に係る国の動向について</b>	
<p>（加配対象となる者の資格について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この案ではほぼ承認できるものと思われる。</li> <li>・ 加配対象保育士は、3人全員とも無資格でも構わないという事か？</li> </ul> <p>（「当分の間」について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「当分の間」とされているが、いつまでか？</li> </ul> <p>（子育て支援員研修との関係について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の特例措置で、例えば退職して潜在している資格者が着目されていると思うが、蒸し返しが広がることを懸念する。子育て支援員研修の内容は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国から FAQ が提示される予定(注)であるため、その内容を確認した上で対応する。 <span style="color: red;">(注)会議後に国から提示され、「保育士資格を有する者を、各時間帯に必要な保育士数の 2/3 以上配置しなければならない」とされている。</span></li> <li>・ 国が指すのがどのくらいになるかは現時点では不明(注)だが、条例の文言的には「当分の間」となるのでは。 <span style="color: red;">(注)会議後に国から提示され、「女性の就業率の上昇等により、保育の受け皿拡大が急速に進んでいる間」とされている。</span></li> <li>・ 基本研修、フォローアップ研修、専門研修などがあるが、まだ国の案でしかない。国の省令改正案も「市長が認める者」と記載しているため、同研修をどのように扱うかについても、市としてどのように育成するのかを含め、検討していく。</li> </ul>

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>(保育の質の低下への懸念、保育士不足について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無資格者でも保育が可能となると、新制度移行の際に十分議論してきたことと矛盾する。慎重な取組が必要。</li> <li>・ 上記意見には同感だが、(施設として) 本当に保育士不足。募集をしても応募がない。そういう状況の中、本件は待機児童解消の面から緊急的な対応策であることを理解して頂きたい。</li> <li>・ 保育士不足とは言われるが、保育士そのもの、つまり有資格者の人数自体は不足していない。しかしながら、それらの有資格者のうち、就職活動で保育士としての仕事を求めている人は3分の1ほどしかいないと聞いた。 緊急対策として保育士以外の者を受け入れるのはやむを得ないが、基本的には、「有資格者が保育士を目指す社会にするにはどうしたら良いか」に知恵を絞る方が良いのではないかと。</li> <li>・ 一旦退職した保育士を把握できていれば、不足の解消にもつながるのではないかと。そのような仕組みはあるか？</li> </ul> <p>(子育て家庭教育アドバイザーとしての研修参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子育て家庭教育アドバイザー」として、市内幼稚園・保育園の職員研修を行っている。県事業で子育て支援コーディネーター養成講座が行われており、本市内に30名ほどいらっしゃるのと、その方々を活用し、研修のため退職保育士のリストを把握すると良いのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長崎県では人材バンクへの登録制度が行われており、登録の呼びかけはされているが、本人の申入れに基づくものであり、全て把握できるわけではない。</li> <li>・ 改正案では「市長が認める者」とされているため、研修をどこまでするのかについては、「市としてどういう研修を受ければよい」という話になる。ご提案頂いたことを参考にしながら検討していきたい。</li> </ul>
<b>議題(2) その他 ②事務局からの依頼事項</b>	
<p>(委員に対し、事務手続に係る説明を行った。)</p>	

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<b>自由質疑・意見交換</b>	
<p>(佐世保市総合計画との関係、市長部局と教育行政の連携について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合計画の「政策4-1 子どもと子育てを支える環境づくり」の具現化として、新させぼっ子未来プランが策定されているが、教育行政が出てこない。市長部局と教育行政は別の政策なのかという気がする。「子ども」は18歳未満を指すが、子ども未来部が所管する事業は「乳幼児の子育て支援プラス放課後児童」が対象とを感じる。教育行政との連携・統合はどのように考えるか？</li> <li>・ 第6次佐世保市総合計画は良い資料であり、子ども・子育て会議メンバーに配布して頂ければ参考になるのではないか。</li> </ul> <p>(発達障がい等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども発達センターの診察を受けるのに6か月程度も待たなければならないのが現実か？(施設を運営する立場として)非常に深刻であり、そのような状況はどうにかして排除してもらわなければならないと思う。</li> <li>・ 2歳以上の保育士配置基準は6人につき1人だが、障がい児については1対1で対応しなければならない。1人の障がい児に保育士が対応していると、他の保育士は残る園児全員の対応をせざるを得ず大変であり、このような課題はできる限り解消して欲しい。</li> </ul> <p>(学童保育について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の余裕教室を何とか使えないか。放課後総合プランでは、全面的に「余裕教室の活用を」という方針が打ち出されている。もっと具体的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両者それぞれに佐世保市総合計画の分野別計画が策定されているが、全く関連がないわけではない。子ども未来部の特徴的なところで言えば、教育と福祉の繋ぎ合わせといった部分もあり、更に保健所機能としても役割を担っている。それぞれが連携しながら対応していくべきだという認識は持っており、できるだけ全職員にそのような意識啓発をしながら、子ども未来部としての業務を遂行していきたいと考える。</li> <li>・ 確かに深刻であると認識している。現状では、すぐに診察しなければならない場合は順番を飛び越すなど、臨機応変に対応している。同様の施設が県内でも少ない中、我々としては国や県に一定対応してもらいたく、県にも要望を行っている。これは本市のみならず全国的な課題でもあると思っており、ご理解いただきたい。</li> <li>・ 子ども発達センターは、開設以来人員体制を強化しながらニーズに対応してきたが、それでも7か月ほどお待ち頂いているのが現状であり、これ以上人員を増やせるかどうか、ということもある。佐世保市内もしくは県北地域で、療育を実施できる医療機関を増やすことも一つの方法と思う。</li> </ul>

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>に調査できないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>深刻なのは、学童保育が不足している中、保育所卒園児の学童をどうするか。それによって親の就業が制限されてしまうので、ぜひ対応願いたい。</li> </ul> <p>(保育士資格者の就職、保護者の支援について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年100人超の学生が就職するが、一般企業に就職するのは2人ほどで、あとは進学も含め保育職に就く。就職場所のほとんどが県北地区内であるが、今年は県外へ出る者が増えた。例年は3～4人程度が関東や福岡に出ていたが、今年は10人近くとなった。ほとんどが地元の職に就きたいという者であり、早々に就職がきまっている。</li> <li>保育士にならない(辞めてしまう)条件が3つあると聞いた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①園内、職員間のいじめ。</li> <li>②書類作成などの仕事がたまり、持ち帰り残業せざるをえない状況。</li> <li>③保護者からの苦情。</li> </ul> 有資格者は沢山いるため、その人たちがどうすれば保育士になってくれるのかという知恵を出し合わなければならない。</li> <li>保護者に対する支援啓発として、妊娠して子どもを出産するまでに離婚しないとか、夫婦間でコミュニケーションを取るとかについての親育ち講座といった仕組みについて、子ども・子育て会議で検討していくことが、「今後、次を出さない」という点で重要であり、提案したい。</li> </ul> <p>(利用者支援事業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3つの類型がある中、子育て支援に関わる人間を増やしていくことで、次のコミュニケーションに繋いでいけるようなサービスになってい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご指摘は以前から頂いており、教育委員会・学校と協議を行うが、やはりまずは学校教育での使用が優先されるということでご理解頂かざるを得ない。ただ、開設に向けて各学校と具体的に依頼する際に、教室の具体的な使い方など、踏み込んだ話をしていきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>ご提案のように、子ども・子育て会議の場でそのようなものを審議するとなると、会議自体の回数をかなりこなさなければならないため、こういった形で作っていくべきか、内容を検討させて頂きたい。それを新させばっ子未来プランに反映させていくことについては、十分考えられる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>3類型は国が交付する補助金の基本形態であり、制約がある。そのような中、我々としては、特定型で開始して利用・相談の状況を</li> </ul>

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>くことができないか検討して頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者も大変な状況の中で過ごしており、保育士と保護者を繋げ、保護者が困っていることを、行政等で支援するというような仕組みが作られると、問題も少しずつ解決すると思う。 <p>(保育士の離職について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若い保育士が退職する理由が10項目あるが、主なものは、①仕事を教えてもらえない、②即戦力になれない、③意見を聞いてもらえない、④したいことをさせてもらえない、⑤職場の雰囲気が悪い。⑧か⑨としてパワハラがあった。新卒者は自己実現に向け、張り切って社会に出ている。だから現場に出て仕事を教えて頂き、育てて欲しいのが切実な要望。</li> <li>施設側としても、肝に銘じなければならない。ほとんどの職員は保育士になりたい、子ども達と働き、一緒に夢を育てたいと思って就職していると思うので、それを潰すようなことを、園の経営者がすることではない。</li> </ul> <p>(本日の意見・感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育の良し悪しは若い人や地域の人たちにもよる。保育士だけが子どもを育てるのではなく、子育てに関わる人たちでコミュニケーションを取っていくべき。分かってないから誤解が生じる。分かり合えばもっと広がる。</li> <li>ある歌の「何のために生まれて何をして生きるのか。答えられないなんてそんなのは嫌だ」という歌詞を想起した。まさに子育ても同じで、コミュニケーションにより100%の関係を作れるか。経営者として重く感じた。</li> <li>保幼小連携の取組が始まっている中、(教育委員会として)子ども未来部との意見交換・情報共有により、解決できる問題があれば解決していきたい。</li> <li>幼稚園としては、従来から「幼稚園は保護者が決める(保育所は市へ申し込む)」という意識</li> </ul> </li></ul>	<p>見ながら、次のステップで変えるということもあるかと思っている。</p>

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>があったため、さほど不満がなかった（不満があっても、「自分が選んだ園だから」という気持ちになる）のではないかと思う。一方、従来幼稚園では園児をスクールバスで送迎していたため、保育所と比較して保護者との接点が少なかったが、新制度で（認定こども園として）2号・3号児を受け入れるようになり、送迎の場面でも保護者と話す時間ができた。</p> <p>(会長総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本日のキーワードとして、「繋がり」「コミュニケーションを深める」というものが挙げられると思う。子どものために考える、子どものために繋がりやコミュニケーションを深める、といったことの必要性を感じた。</li> </ul>	